

# 令和5年度 理科 授業改善推進プラン

## 大田区学習効果測定 結果の分析

- 4年生：校内平均正答率は、目標値を下回った。また、内容別正答率では、11項目中1項目（「こん虫のからだのつくり」）は目標値を上回ったものの残りの項目は全て下回った。特に「植物の育ち方」「電気の通り道」では、目標値よりも10ポイント以上も下回っている。
- 5年生：校内平均正答率は、目標値を下回った。内容別にみると11項目中「雨水のゆくえと地面の様子」は目標値を上回ったものの、残りの11項目では全て下回っている。中でも、「1年間の動物のようす」「電気のはたらき」においては10ポイント以上下回っている。
- 6年生：校内平均正答率は、基礎は目標値を上回ったが活用は下回った。項目別に見ると10項目中6項目（「天気の変化」「魚のたんじょう」「流れる水のはたらき」「ふりこのはたらき」「電流のはたらき」「けんび鏡の使い方」）が目標値を上回った。対して4項目（「植物の発芽と成長」「植物の花のつくりと実」「人のたんじょう」「物のとけ方」）が目標値を下回った。

### 【観点別正答率の分析】

| 知識・技能                                                                                             | 思考・判断・表現                                                                  | 主体的に学習に取り組む態度                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 4年、5年は目標値を下回り、6年は上回った。<br>理科では専門的な用語や用具の名称が問題に出てくる。言葉の意味が理解できていなかったり用具の名前を覚えられなかったりして不正解になることがある。 | 全学年で目標値を下回った。<br>実験結果から考察することが難しい。また、自分の考えを文章に表現することを困難に感じ、白紙で回答する児童が目立つ。 | どの学年も目標値を下回った。<br>記述の中から評価されている項目である。記述で表現するのを難しく感じている児童が多く無回答が多い。 |

## 課題<今回の調査結果から>

問題の内容別正答率では、4年生は、「植物の育ち方」「電気の通り道」で大きく目標値を下回り、5年生は「1年間の動物のようす」「電気のはたらき」「物の体積と温度」で下回った。6年生では大きく下回った項目はない。

- 知識・技能では、用語を覚える時間も必要だと考える。そして、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録することが必要であり、その学習経験から知識も獲得できると考える。4, 5年生では電気に関する正答率のポイントが低く、この単元は実験の準備片付けで時間がかかる。実験後に振り返りの時間を確保して単元の終末には、学習したことを用いて身の回りの現象や事象を説明するなど、習得した知識を活用する場面をつくる必要を感じた。
- 思考・判断・表現の力を伸ばすために、単元や授業の導入時に、差異点や共通点を基に問題を見いだす過程を踏んで、問題意識をしっかりと持たせた上で考えさせていく。「問題解決の力（比較・関係付け・条件制御・多角的にみる）」を発揮しながら科学的な見方・考え方ができるように児童の意見を採り上げていく。実験・観察後に考察を書かせることで事実と考え方をつなげられる授業展開にしていく。
- 主体的に学習に取り組む態度については、自らの学習について振り返りながら学習をすすめることができるように単元の計画を立てていく。また、学習したことと日常生活での事物・事象とが結び付くことを実感したり、学習したことを日常生活で活用したりする経験を積んでいくことができるようにする。